第147回日本医師会定例代議員会が、6月27日（土）に、日本医師会館1階大講堂で開催された。

北海道ブロックからは、会長候補の中川顧問、理事候補の長瀬会長・藤井常任理事のほかに、深澤・藤原・佐古・松家・今・本間・阿久津・沖・山下・吉田・稲葉各日医代議員、鈴木日医予備代議員、目黒常任理事、山科日医選挙管理委員が出席した。

◇

定刻9時30分、事務局長が議事運営委員会の決定に基づき、仮議長に田村瑞穂代議員（青森県）を選出したことを述べ、仮議長により開会が宣言された。

引き続き、仮議長は、代議員定数372名に対し370名の出席により本代議員会が成立することを告げ、議事が進行された。

仮議長より議事録署名人として今井立史代議員（山梨県）、広岡孝雄代議員（奈良県）を指名し、横倉会長より挨拶の後、仮議長は、議長選挙を行うことを宣し、事前に、立候補の届け出のあった馬瀬大助氏（富山県）と池田秀夫氏（佐賀県）の他に立候補の申し出がないかを確認した後、川出選挙管理委員長より選挙管理委員の紹介の後、選挙立会人・開票管理人が紹介され、選挙管理委員長より投票方法につき仔細説明の後、定数1人に対し、候補者2人による投票が行われ、次のとおりの結果となった。

代議員会議長　選挙結果（定数1人）
（投票人数370人、投票総数370票、
　無効・白票5票）
1．馬瀬　大助（富山県）　174票
2．池田　秀夫（佐賀県）　191票（当選）

次いで、就任挨拶を求められた議長が登壇し挨拶後、仮議長が円滑な議事進行への協力を謝し降壇した。

引き続き、池田議長が議長席に着き、副議長の選挙に移ることを告げ、事前に、立候補の届け出のあった太田照男氏（栃木県）の他に立候補の申し出がないかを確認したがなく、太田照男氏を当選人と決定してよろしいか諮り、挙手多数により、太田照男氏を当選人と決定すると告げた。

副議長選挙結果（定数1人）
（無投票当選）
1．太田　照男（栃木県）

その後、議長が議事運営委員会委員（当会からは深澤代議員）を指名し、暫時休憩を告げた。

再開し、令和2年度日本医師会事業計画および予算の件につき報告後、議長から財務委員会委員（当会からは藤原代議員）が紹介され、財務委員会が開催された。財務委員長報告の後、令和元年度日本医師会事業報告の後、第1号議案「令和元年度日本医師会会費減免申請の件」が上程され、提案のとおり挙手多数で承認された。

次に、第2号議案「令和元年度日本医師会決算の件」が上程され、財務委員長報告の後、提案のとおり挙手多数で承認された。

続いて、第3号議案「令和3年度日本医師会会費賦課徴収の件」が上程され、提案のとおり挙手多数で承認された。

その後、第4号議案「日本医師会役員（会長、副会長、常任理事、理事、監事）及び裁定委員選任の件」ならびに第5号議案「日本医師会役員（会長、副会長、常任理事）選定の件」が一括上程された。

はじめに、会長候補（理事）選挙が行われ、選挙

管理委員長より投票方法につき仔細説明の後、定数１人に対し、候補者２人による投票が行われ、次のとおりの結果となった。

会長（理事）選挙結果（定数１人）
（投票人数371人、投票総数371票、
無効２票、白票４票）
１．横倉　義武（福岡県）　174票
２．中川　俊男（北海道）　191票（当選）

ここで、議長は暫時休憩に入る旨、宣した。

再開後、引き続き、副会長候補（理事）選挙、理事選挙、監事選挙、裁定委員選挙については、それぞれ定数か定数を下回っていることが議長から説明され、次のとおりの結果となった。

副会長（理事）選挙結果（定数３人）
（無投票当選）
１．猪口　雄二（東京都）
２．松原　謙二（大阪府）
３．今村　　聡（東京都）
~~４．茂松　茂人（大阪府）~~　（辞退）
~~５．柵木　充明（愛知県）~~　（辞退）

理事選挙結果（定数15人）
（無投票当選）
１．長瀬　　清（北海道）
２．松山　正春（岡山県）
３．松井　道宣（京都府）
４．中尾　正俊（大阪府）
５．二井　　栄（三重県）
６．入江　康文（千葉県）
７．小原　紀彰（岩手県）
８．野田　正治（愛知県）
９．藤井　美穂（北海道）
10．尾﨑　治夫（東京都）
11．齋藤　義郎（徳島県）
~~12．松田峻一良（福岡県）~~　（辞退）
13．河野　雅行（宮崎県）
14．菊岡　正和（神奈川県）
15．樗木　　等（佐賀県）

監事選挙結果（定数３人）
（無投票当選）
１．寺下　浩彰（和歌山県）
２．佐藤　武寿（福島県）
３．岡林　弘毅（高知県）

裁定委員選挙結果（定数11人）
（無投票当選）
１．嶋田　　丞（大分県）
２．末長　　敦（岡山県）
３．稲川　　昭（北海道）
４．安楽　之孝（栃木県）
５．小林　　博（岐阜県）
６．樋代　昌彦（長野県）
７．齊藤　　勝（青森県）
８．山本　光興（東京都）
９．柏井　洋臣（和歌山県）
10．月岡　鬨夫（群馬県）
11．白岩　照男（東京都）

その後、常任理事（理事）選挙については、定数10人に対し、候補者11人による投票が行われる見通しのため投票用紙準備のため時間を要すとの説明の後、暫時休憩となった。

再開後、常任理事（理事）選挙について説明の最中、辞退者が出たため定数どおりとなり、次のとおりの選挙結果となった。

常任理事（理事）選挙結果（定数10人）
（無投票当選）
１．江澤　和彦（岡山県）
２．長島　公之（栃木県）
３．松本　吉郎（埼玉県）
４．羽鳥　　裕（神奈川県）
~~５．平川　俊夫（福岡県）~~　（辞退）
６．城守　国斗（京都府）
７．釜萢　　敏（群馬県）
~~８．近藤　太郎（東京都）~~　（辞退）
~~９．道永　麻里（東京都）~~　（辞退）
10．渡辺　弘司（広島県）
11．神村　裕子（山形県）
12．宮川　政昭（神奈川県）
~~13．小玉　弘之（秋田県）~~　（辞退）
14．橋本　　省（宮城県）

最後に議長より新役員が紹介され、新執行部を代表して中川会長より就任挨拶が行われたのち、12時26分に終了した。

なお北海道ブロックからは、佐古代議員が「遅れているわが国の医療分野のIT化に対する日本医師会の考えについて」と題し質問を提出したが、後日日医雑誌による書面回答となった。

以下、本稿では稲葉代議員の出席記を掲載する。その他、中川新会長の所信、書面回答となった質疑応答等詳細については、日医ニュース、日医雑誌等を参照いただきたい。

代議員会出席記

「第147回日本医師会定例代議員会」に出席して

代議員　稲　葉　秀　一

国の緊急事態宣言が解除されたとはいえ、未だ新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、あの「スペインかぜ」以来の100年に一度のパンデミックに向き合っているさなか、令和２年６月27日第147回日本医師会定例代議員会が開催されました。

今回は２年に一度の役員改選期にあたり、例年役員改選を伴う定例代議員会が開催された翌日には臨時代議員会を開催しておりますが、新型コロナウイルスの感染リスクを低減する観点から、翌６月28日に開催予定の第148回日本医師会臨時代議員会は中止という異例の開催となりました。

さてその役員改選ですが、北海道医師会としては道医顧問で10年間日医副会長を務めた中川俊男副会長（69歳・北海道）の会長を目指す選挙でした。直前までは、中川副会長への「禅譲」を公言していた４期８年務めている横倉義武会長（75歳・福岡県）でしたが、急遽翻しての立候補を表明されたことにより、あたかも東西二分しての選挙戦になりました。さらに両候補ともキャビネット選挙を掲げたこともあり、立候補は、議長２名、副会長は定員３名のところ５名、常任理事は定員10名に14名と大型選挙を呈しました。

選挙前日、会長候補の中川顧問、理事候補の長瀬道医会長・藤井道医常任理事のほか日医代議員、目黒・水谷道医常任理事、山科日医選挙管理委員会委員が都内に集まり、打ち合わせ会を行いました。長瀬選挙対策本部長から「選挙戦は非常に良いかたちで進んでいる」との状況報告があり、中川会長候補からは「爽やかな選挙を心掛け、多くの支持を得ている」との挨拶がありました。会場には、猪口副会長候補（65歳・東京都）はじめ５名の新人役員候補が挨拶に訪れました。

選挙日朝、例年なら日医会館の玄関内には会長候補以下キャビネット候補・推薦代議員が列をなし、最終依頼の熱気が漂っているところですが、今回は新型コロナ対策で代りに入口にはサーモカメラが設置され、体温測定を受け必要に応じて手指の消毒を行い、代議員・関連役員は全員マスク姿で淡々と受付を済ませ控室（北海道ブロックは５階でエレベーターの乗員は４名に制限されていることから階段を利用）にあがり、最後の打ち合わせをして議場に向かいました。議場では全員フェイスシールドの着用が求められ、あたかも機動隊員の集まりの様相です。

９時30分に開会、北海道ブロックの代議員12名の議席は、ステージから５列目のほぼ中央です。ちなみに、その前２列は福岡県をはじめとした九州ブロックの議席です。仮議長は代議員の年長者の中から選定するとの規定があり、青森県の田村瑞穂代議員（84歳）が仮議長に選出され、代議員定数372名中370名が出席して議事が始まりました。

横倉会長の挨拶は５つの議案を提出していることを述べるにとどまり約30秒で終わり、引き続き代議員会議長と副議長の選出が行われました。議長の選定は選挙になり、投票結果は池田秀夫氏（佐賀県）191票、馬瀬大助氏（富山県）174票、無効・白票５票で、新議長に池田氏が選出され、副議長は単独候補で太田照男氏（栃木県）が挙手により当選しました。前日の打ち合わせ会で、大差をつけて池田氏の当選を目指していた私達にとり、一抹の不安がよぎる結果でした。

議事運営委員会のあと、報告事項と第１号～３号議案が上程され挙手により承認、その後10時50分に議場が閉鎖され、山科選挙管理委員会委員を含む３名の選挙管理委員の立ち合いのもとで会長選挙の投票が10時55分開始されました。11時15分に投票結果が報告され、中川氏191票、横倉氏174票、無効２票・白票４票で中川氏が日医新会長に選出されました。その瞬間は拍手も大きなざわめきもなく、横並びの道医の各代議員からは喜びと安どの、そして前列の方からは落胆のため息が漏れました。

ここで、暫時休憩に入り11時57分議事再開、２名の副会長候補と１名の理事候補の立候補辞退の報告が議長からあり、副会長、理事、監事、裁定委員は挙手により承認されました。12時02分再度暫時休憩に入り常任理事候補の投票の準備をしている最中、12時13分議事再開、議長より辞退者の報告があり、常任理事も挙手により承認されました。今回、北海道からは理事として長瀬　清道医会長、藤井美穂道医常任理事、裁定委員に稲川　昭室蘭市医師会顧問が選ばれています。

12時18分、中川新会長以下新役員が拍手の中登壇、新役員の紹介のあとに中川新会長の挨拶があり、12時26分代議員会は終了しました。

その後15時から中川俊男日医会長候補選挙対策本部主催の報告会が、帝国ホテルで目黒道医常任理事の司会で開催されました。新型コロナウイルスの感染リスクを低減する観点から、立食形式ではなく１テーブル６席での会食で、多くの都府県医師会長をはじめ新役員・代議員が参加され、新会長の門出を祝う盛況な会でした。祝辞に立ったある会長の「やっと日本医師会長も津軽海峡を渡りましたね」との挨拶が印象深く響きました。

新会長のお膝元、北海道医師会の役割が大切です。それぞれの地域・立場に関わらず支援の輪を広げていくことが、中川新会長の掲げる最強の日本医師会を作る礎になると思います。世代交代が進み多くの新役員のもとで、新しいスタンスを持った中川新会長の今後の活躍が楽しみです。